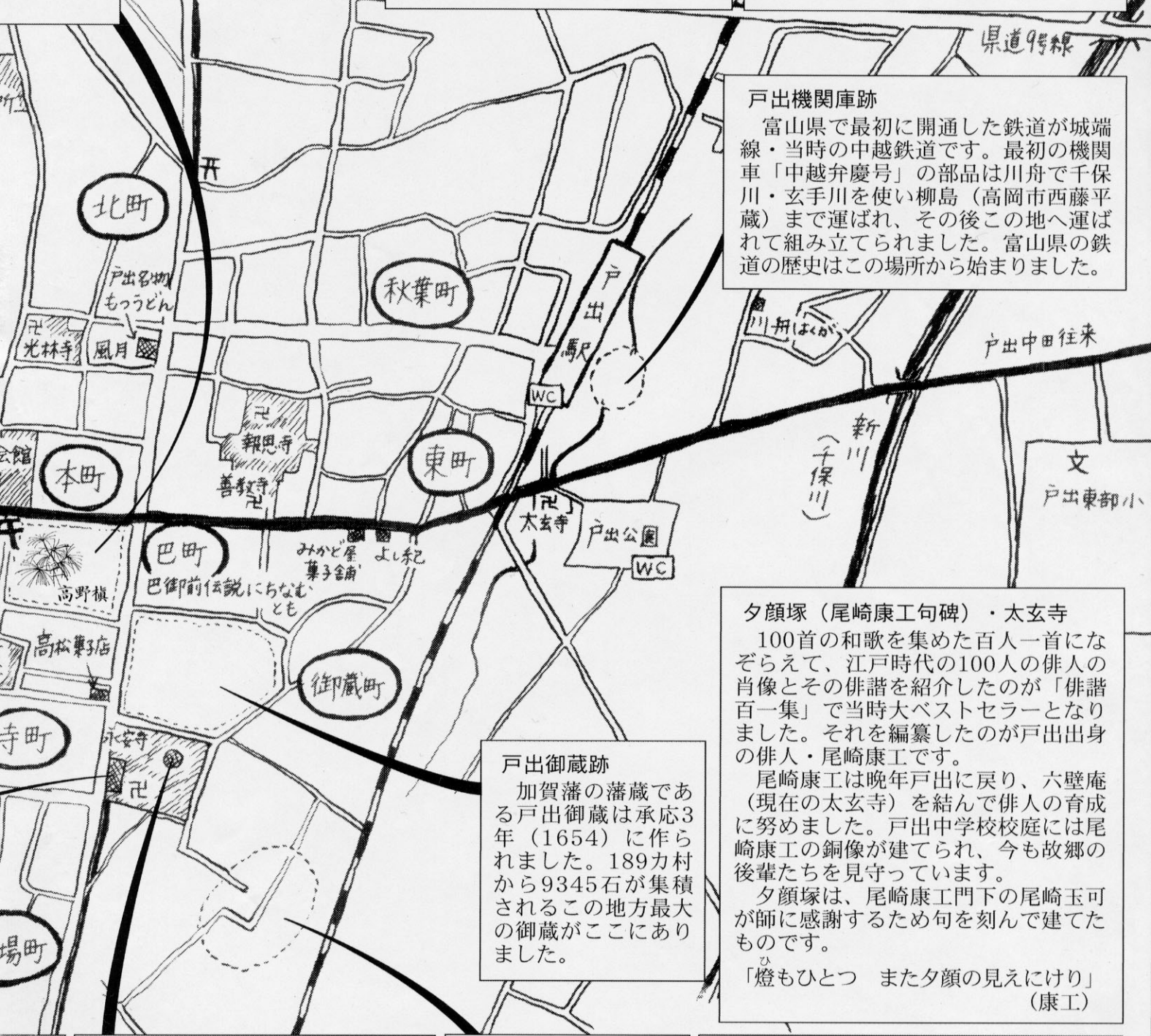


て建てられ
者であった
れました。
高野槇の巨
あろう「御
野槇は、2
ため、高野
たものだ

玄手川
旧国道156号
高岡街道

戸出駅
明治30年(1897)開業。福野駅、城端駅と並んで富山県内で最も古い駅舎のひとつ。戸出町の玄関として建てられた駅舎は、屋根は高く威風堂々としています。鉄道マニアなどの間で明治の面影を残す駅舎として知られ、全国から多くの人を訪れます。

戸出公園
およそ400年前、ここは千保川の川原でした。庄川の本流が現在の流路となった後にすり鉢形の相撲場が作られ、戸出は相撲の盛んなところとして知られていました。現在相撲場はありません。
木曾義仲伝説「駒繫ぎの松」の石碑もあります。



戸出機関庫跡
富山県で最初に開通した鉄道が城端線・当時の中越鉄道です。最初の機関車「中越弁慶号」の部品は川舟で千保川・玄手川を使い柳島(高岡市西藤平蔵)まで運ばれ、その後この地へ運ばれて組み立てられました。富山県の鉄道の歴史はこの場所から始まりました。

夕顔塚(尾崎康工句碑)・太玄寺
100首の和歌を集めた百人一首になぞらえて、江戸時代の100人の俳人の肖像とその俳諧を紹介したのが「俳諧百一集」で当時大ベストセラーとなりました。それを編纂したのが戸出出身の俳人・尾崎康工です。
尾崎康工は晩年戸出に戻り、六壁庵(現在の太玄寺)を結んで俳人の育成に努めました。戸出中学校校庭には尾崎康工の銅像が建てられ、今も故郷の後輩たちを見守っています。
夕顔塚は、尾崎康工門下の尾崎玉可が師に感謝するため句を刻んで建てたものです。
「燈もひとつ また夕顔の見えにけり」
(康工)

戸出御蔵跡
加賀藩の藩蔵である戸出御蔵は承応3年(1654)に作られました。189カ村から9345石が集積されるこの地方最大の御蔵がここにありました。

戸出御囲跡
ここには加賀藩の材木御囲場(貯木場)があり、当時の建築物の多くにここで貯えられた木材が使われました。
他には千保川沿いでは金屋、中野(現砺波市)にも御囲がありました。

千保川
約400年前、千保川は庄川の本流であり、西は現在の戸出公園から東は清水神社のあたりまでの大河でした。陸路で多くの物資を運ぶのが困難だった時代、千保川はこの地方の物流の大動脈であり、戸出近郊で取れた産物も千保川を使い関西方面などへ運ばれていました。
現在、戸出では新川(しんかわ)と呼ばれています。

萱塚(芭蕉句碑)
芭蕉の門人である尾崎康工が恩師に感謝するために宝暦年間(1751年頃)に建立したといわれています。当初は永安寺の北方にありましたが、昭和24年(1949年)、道路拡張のため永安寺に移建されました。
「観音濃 いらかみやり津 華の雲」
かなのんの
つ くも
はな

主が
たりす
のこと
建てら
成って
戸時
旅屋
が、昭
した。